

**活動内容**

○よもぎ団子をつくるため、よもぎを摘みに出かけます。「よもぎの新芽を食べると、血がきれいになり元気に過ごせる。よもぎはけがを治すこともできる薬だよ」(5歳児)



○散歩で見つけた花や虫を自ら図鑑で調べたり、絵を描きます。体験したことを思い起こし、イメージを広げ熱中して取り組む姿があります。(4歳児・5歳児)



○絵本「おおきなきがほしい」に出てくる大きな木を見つけて登ります。木のぼりは、自分で考え手足を使って、登り方を工夫しています。（2歳児～5歳児）



○畑の草抜きをして畑を耕し夏野菜を植える準備をし、成長を楽しみに水やりをします。







○5歳児が、2歳児に「やさしく土のお布団かけてあげるんよ」と芋の苗を植える様子を見守っています。又おぐらの花が咲き「どこにおぐらができるの？」興味津々です。

○自分で栽培した野菜は特別で、苦手な野菜も食べられるようになっていきます。(2～5歳児)

○草すべり (5歳児)

段ボールやビニール袋を使い、工夫したり友だちと協力して繰り返し滑っていました。



○水分峡で川遊び (5歳児)

川にすむいきものを調べて行きました。石の裏を探したり水に潜ったり自分で考え、友だちと協力して魚やかきを捕まえていました。

石で水をせき止めて、ダムをつくり水の流れを工夫して試していました。

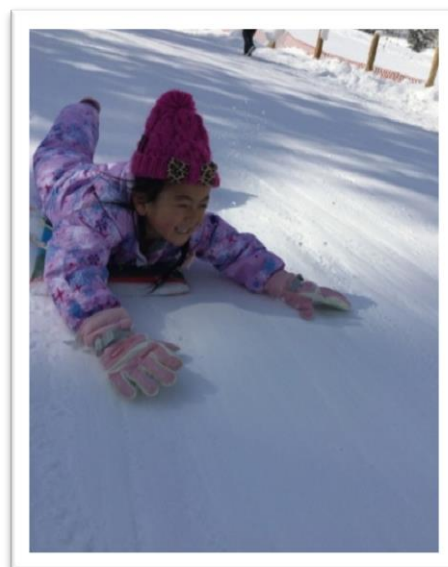


○雪遊び（5歳児）

子どもたちは、「南極みたい」「地球ってきれいだね」「辺り一面真っ白だね」

「こんな楽しいことは初めて」雪景色をみて感じたことを伝え合う姿がありました。

そり遊びでは、一人ひとりが、様々な体形を考え（手を伸ばしたり、ボードのように身体を斜めにして滑る）速く滑る方法を試行錯誤する姿がみられました。



※子ども一人ひとりが、自然環境の中で興味、関心のあることをみつけ夢中で取り組み遊びこめるよう保育者は、見守り必要に応じて援助していきました。

自分で考え判断して行動する姿、友だちと話し合い協力したり、困ったことがあると助け合う姿、感じたことを自分なりに表現し伝え合う姿がみられるようになりました。

平成30年度は、引き続き子ども主体の保育を確固とし、保育者は自然保育の知識、技術を積極的に習得し、自然保育の豊かさを保障していきます。